

高掠用水

高掠用水は九頭竜川の鳴鹿大堰から取水された十郷用水から、新江用水の分流点の少し下流で分流し、丸岡町東部を北へ、丸岡町の市街地まで流下しています。

高掠用水の歴史は古く、室町時代の開削とも言われており、十郷用水から分流し、45の村を潤していました。

享保2年(1717年)の記録では、約35,000石と、小大名クラスの石高を誇る大用水でした。

このように数多くの村に配水されるため、7つの水路に枝分かれをしていました。



1本の水路をふたつに分けるだけでも、渇水時にはただならぬ紛争が生じます。7つの派流ごとに井番役(水路の管理人)を設けて、分水の調整をしていたわけですから、その苦勞は大変なものであったことが想像されます。

また、途中の下久米田で大谷川が流入していました。この大谷川は小河川ですが、深い溪谷の水が流れ込んでいるので、大雨が降るとたちまち増水し、氾濫してしまう厄介な河川でした。

洪水は容赦なく田畑を襲い、あたり一帯は泥海と化してしまいました。地元では出水に備えて、太鼓、提灯、ロウソク、笠、ゴザなどが常備してあったそうです。